

パートナーシップで進めるまちづくり

# 京まち工房 55

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

特集

## 住み継がれる美しいまち 西竹の里タウンハウス



- まちづくり報告  
家を愛すると、家から愛される  
京町家まちづくりサロン・京町家まちづくり散歩
- まちづくりイベント  
京町家まちづくり調査員 大同窓会  
東日本大震災・復興まちづくり
- コラム  
（財）京都市景観・まちづくりセンター 賛助会員募集中！  
ふっきーの徒然なるままに  
スタッフのつぶやき

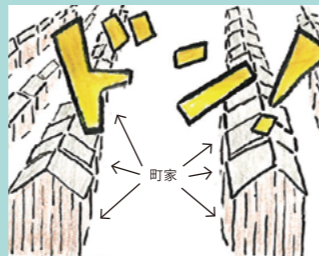


<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

### 京兎物語 ペンネーム ひこ



～ 100年後～



### INFORMATION



#### 「まちのビジョンづくりのススメ」 できました！

「やっぱりこのまちが大好き」  
「このまちに住んでよかった」  
「これからもこのまちで働きたい」

「自分のまちをよくする」ためのきっかけやコツ、地域独自でまちづくりに取り組む京都市内の学区等の取組を紹介。

A5版 48P (2011年3月発行)  
編集・デザイン: Marble.co

お住まいの地域などで、「うちの地域の特性を生かした取組をしていこう！」というときに、この冊子を活用してください！



配布についてのお問い合わせはこちらまで

京都市 都市計画局 都市企画部 都市づくり推進課 075-222-3503

### 賛助団体

桂坂学区自治連合会 / 修徳自治連合会 / 松ヶ崎自治連合会 / 有隣学区自治連合会 / 株式会社 フラットエージェンシー / NPO法人 古材文化の会 / 株式会社 八清 / 株式会社 ジェイアール西日本伊勢丹 / 株式会社 地域計画建築研究所 / 株式会社 マーブル / 社団法人 京都府建築士事務所協会 / 平安建材 株式会社 / 一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会 / 京都駅ビル開発 株式会社

### (財)京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127  
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1  
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

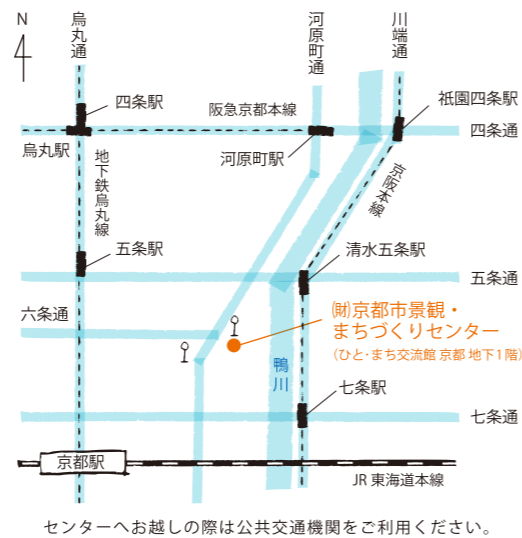
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704  
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間  
平日・土 9:00～21:30  
日・祝 9:00～17:00

休館日  
毎月第3火曜日(国民の祝日にあたる時は翌日)  
年末年始(12月29日～1月4日)

交通系統  
バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車  
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分  
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分

マチ右衛門 Twitter



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

design:Marble.co



景観・まちづくり大学  
はじまるよ

# 特集

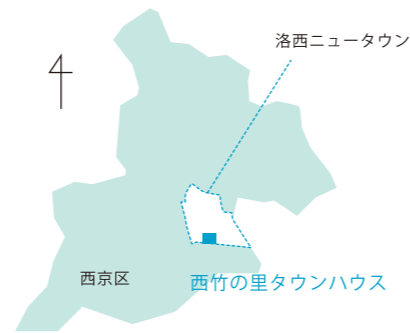
## 住み継がれる美しいまち 西竹の里タウンハウス



西竹の里タウンハウスは  
洛西ニュータウンの一角に位置する  
連棟形式の住宅が集まるまちです。

入居時より建築協定(一人協定)<sup>いちにききょうてい</sup>\*が結ばれています。  
まちの中心部のモニュメントには「単に住宅の質の向上を内のみにとどめず外にも目を向けることにより環境と住まいが一体となって生まれた新しい集住体である。」と刻まれています。この言葉が示すようにこのまちは建物自身だけでなく、周囲の住環境、コモンスペースの充実を図り、まち全体として質の高い住環境を保っていきけるように計画されました。

\* 建築基準法で定められた基準に上乗せして、地域に合ったきめ細かな建築のルールを土地の所有者などが取り決め、互いに守りあっていく制度。(建築協定には複数の土地所有者などの合意による合意協定と新しく開発された住宅地などで開発事業者が分譲する前に一人で協定を結ぶ一人協定がある。)

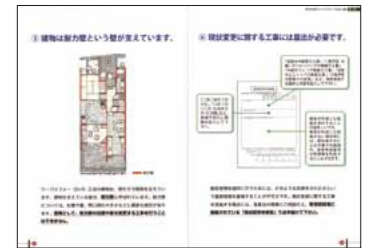


### 住まいのガイドブックの作成に向けて

2011年3月、西竹の里管理組合は住民の住み替えや世代交代が行われる中でも、まちなみを守る取組を継続させていくために、「住まいのガイドブック」を発行しました。

「住まいのガイドブック」作成の目的は  
西竹の里タウンハウスという住まいが大切に住み継がれること、  
住まい手により大切に守り育てられてきた西竹の里タウンハウスの住環境を  
次の世代に引き継ぐことの実現です。

1章では、「耐力壁の位置や所有形態の仕組み、自主管理の仕組み等、タウンハウスに住まう上で知っておくべきこと」を収録しており 2章では、タウンハウスの管理の歴史を年表や関係者の対談を通じて振り返りながら、住まい手による自主管理の意識を見つめ直しています。



ガイドブックから抜粋

作成にあたり、中長期修繕委員会を中心にガイドブックのワーキンググループを立ち上げ、住まいの研究をされている大学の先生方と2×4<sup>ツーバイフォー</sup>工法の専門家と当センターがサポートしました。\*規格化された部材で建築する「木造枠組壁構法」のこと



ガイドブック作成会議の様子

ガイドブック作成は、下記のような取組により  
住民が求めていることを把握しながら進められました。

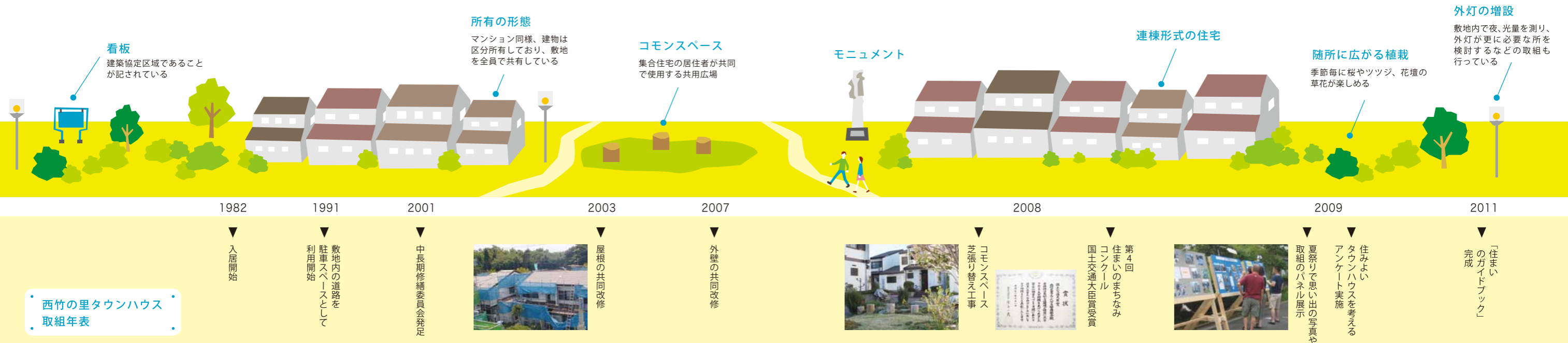
- 全戸対象の居住実態や地域活動への意識に関するアンケート調査
- リフォーム希望者に対する相談会
- 全国のタウンハウスの状況や高齢期の住まいを考える勉強会等

### まちなみを守る取組

1982年5月に西竹の里タウンハウスの入居が始まって以来、今年で30年を迎えようとしています。入居から年月が経つにつれ、棟ごとに行ってきた屋根の改修、各戸ごとの外壁の塗り直しがばらばらに行われ、まち全体の統一感が崩れつつありました。そこで、2001年、管理組合の下に中長期修繕委員会を発足し、屋根や外壁を一斉に共同改修しました。これらの活動により、分譲当時と変わらない統一感のある美しいまちなみを保ってきました。そして、2008年には「第4回住まいのまちなみコンクール」にて国土交通大臣賞を受賞しました。それは、住民が協力して自主管理を続け、まちなみ・住環境が維持されてきたことが評価されたからです。

### これからの住環境維持の為に

作成を通じて、タウンハウスで育ってきた若い世代を含め、タウンハウスに対する住民の思いをいろいろと共有することができました。今後も、本ガイドブック作成に関わられた2×4の専門家の方による住まいの相談会を定期的に行うなど、住環境の維持に取り組んでいきます。



# 家を愛すると、家から愛される

居心地の良い住まいを求めて

グランピエールさん



グランピエールさんとクミコさんの理想の住まいができるまでの道のりをご紹介します。



改修前



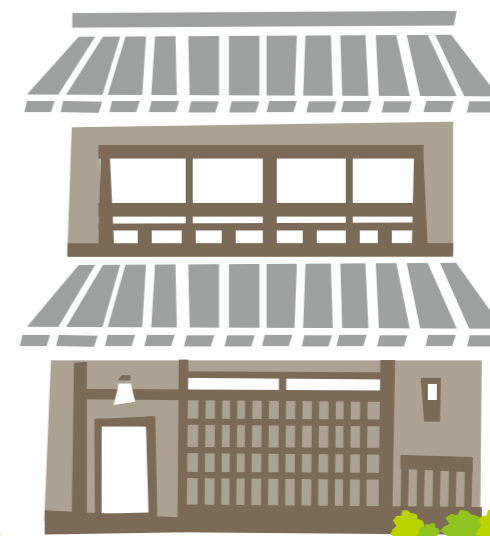
改修後

フランスで生まれ育ったグランピエールさんが来日したきっかけは、奥様であるクミコさんとの出会い。

来日前、グランピエールさんは古いアパートマンに住みリフォームを楽しんでいました。「町家で暮らしたい」と思ったのはごく自然な成り行きでした。しかし、町家の不便さも体験しているクミコさんは、大反対。何度も話し合い、「町家をリフォームすれば、誰でも快適に暮らせるはず」というグランピエールさんに背中を押される形で、気に入る立地・大きさの町家を探すことにしました。

## こんな住まいが、できた！

町家という文化遺産を受け継いでいくことに参加できたことを二人ともとてもうれしく思っています。



平成 22 年度  
京町家まちづくりファンド改修助成事業  
(京まち工房 50 号参照)

### 1 住まいの工夫

## 明るく開放的な空間 フローリングのオープンスペース

柱などの構造を補修して活かし、中央に吹き抜けをつくりました。光が差し込む明るい空間。柱は傷んでいるところを根継ぎ※し、古い材料を生かしました。



壁を取り払って広々と使える、現在の住まい方に合わせた1階



自然の風が通る開放的な2階(中央吹き抜け)

※ 柱の腐った部分を切り取り、新しい柱を継ぎ足す修理法

### 2 住まいの工夫

## 冬暖かく、夏涼しくする工夫

1階にはガスの床暖房を入れ、冬暖かく過ごせるようにしました。1階で暖められた空気が吹き抜け空間を通じて2階を対流し、家全体を暖めます。屋根には断熱材を十分に入れ、断熱性を高めました。風が良く通るよう1階・2階とも坪庭に面して窓を設け、夏の暑さを和らげるようにしました。

### 3 住まいの工夫

## 自然素材を使って、手触りのよい住まい

町家の伝統的な材料である自然素材の木や土、石を使って統一感のある質感を出すことにこだわりました。建具は古建具屋さんで気に入るものを探し、建具のサイズに合わせて開口部を設計しました。



古建具や自然石を使った風呂場



自身で手入れした箱階段

### こんな家に、暮らしたい！

こだわったのは、「快適さとエコロジー」。広く開放感のある部屋がいい、夏を涼しく冬は暖かく過ごしたい、手触りのよい自然素材の家がいい…。プランを何度もスケッチする日々がつづきました。

### 職人さんとの出会い

今では友人のように心の通い合う大工さん・左官屋さんとの出会い、いよいよ着工へ。



大工 長塚さん、グランピエールさん、左官 土橋さん

### ハプニング！

困った事が起きました。屋根が予想よりもはるかに傷んでいて、想定外の予算が必要になることがわかりました。そのため、工事計画を柔軟に変更。室内の壁を中塗り仕上げで止めて、2階の天井板を張る工事も見送りました。どちらも、都合のついた時期に改めて着工する予定です。そのほか、ベンガラを塗る作業を、全て二人で行いました。

### 竣工

伝統的な技術をもつ職人さんたちにとって、二人の自由な発想が受け入れがたい内容のものもあったそうですが、「よい仕事をしたから」と相談に乗ってくれ、話し合いながら一つ一つを形にする日々が続きました。振り返ると大変なこともありましたが「こんな家に、暮らしたい！」をあきらめることなく、イメージ通りの住まいを完成させることができました。

京町家まちづくりファンドの取組

# 京町家まちづくりサロン・京町家まちづくり散歩



「京町家まちづくりサロン」(以下、サロン)と「京町家まちづくり散歩」(以下、散歩)は、参加費の一部が京町家まちづくりファンドへの寄付となるチャリティーイベントです。

サロンでは、京町家を舞台に様々な体験を通して魅力を実感し、また散歩では、地元ガイドによるまちあるきを通して京町家の魅力に迫ります。こうした取組を通して、楽しみながら京町家を未来へ伝える活動にご賛同いただける方の輪を広げていきたいと思ひます。

2011冬  
まちづくりサロン



テーマ 桃の節句

京の文化・季節を楽しむ 2月26日

「西陣の町家古武」主宰の古武博司氏による「究極の京都『西陣』の歴史を学ぶ」西陣界隈講座。仕出し料理「阿古や」の桃の節句の京料理を目と舌で堪能。淡交会の関西宗志氏協力による雛祭りの茶会。水野克比古フォトスペース町家写真館館長の水野歌夕氏案内による、水野家秘蔵の雛人形と江戸期からの道具の見学。明治10年頃創業の金糸平金製造所「箔屋野口」で西陣織を彩る「平金糸」の繊細な職人技を見学。



京の文化・産業に触れる 3月12日

五条坂の生まれの陶芸家清水保孝氏(日本工芸会理事・父卯一氏に師事)と弟子の猪飼祐一氏の案内で、鉄釉陶器分野の人間国宝清水卯一氏の作品と、現存する登り窯「道仙窯」を見学。五条坂界隈の町家に愛され続けた創業350年余りの老舗料亭「はり清」では春の京料理と京焼・清水焼、若主人による老舗の歴史案内を楽しんだ。明治期の町家の陶器屋「陶点晴かわさき」店主の河崎尚志氏の案内による、観光地から一步入った閑静な五条坂界隈を散歩。



テーマ 清水焼発祥の地「五条坂」

3月12日のサロンの寄付金は参加者の了解の下、東日本大震災の義援金として日本赤十字社に寄付させていただきました。

2011春  
まちづくり散歩



ガイド：山本茂氏(京町家大工棟梁)

棟梁シリーズ  
3月19日・4月2日

京都生まれ、京町家一筋の情熱的な棟梁に限られた土地を最大限活用して「美のある暮らし」を実現した京町家の隠された知恵を紹介。棟梁の手掛けた料亭、祇園鉾町の大店、五条楽園、島原の京町家のある風景を巡った。

茶碗坂  
5月21日

多く名工を輩出した茶碗坂。人間国宝近藤悠三記念館、京焼の本流清水六兵衛の家宅なども位置し、今日でも現在第一線で活躍中の作家が活動の拠点としている。このまちを、様々な立場から京焼・清水焼に携わる方々が案内。坂を登りながら次々と紹介される陶芸家、陶芸店、工房…。伝統工芸から前衛的な作品まで多岐にわたる作風を知ることができた。「近藤悠三記念館」では特別に、陶磁器染付の最高峰と称された悠三氏渾身の作「梅染付大皿」にも触れ、京焼・清水焼をととも身近に感じた。

ガイド：浅井興二氏(「東五六」)、山田東哉氏(巧芸陶舗「東哉」)、猪飼祐一氏(陶芸家)



①～④は「まいまい京都2011春」に参加しています。  
<http://www.maimai-kyoto.jp>



ガイド：河崎尚志氏(「陶点晴かわさき」店主)

六原界隈  
4月23日

「陶点晴かわさき」8代目店主が生まれ育った六原界隈を地元人の目線で案内。宮川町、えびす神社、建仁寺、六波羅蜜寺などの観光地の他に地元の人々に愛されるエリアを心優しい店主と散歩。

外国人ツアー  
3月23日・5月25日

六原界隈の町家に暮らす芸術家が一般の観光では訪れることがないエリアを案内する外国人向けちょっとめずらしいディープツアー。アメリカ、香港、ネパールから参加。観光地から一步奥へ入った京都を堪能。

ガイド：小野晴久氏(芸術家)、山口吾往子氏(通訳案内士)



参加者 受付中!

京町家まちづくりサロン2011夏

「京の四季を楽しむ会 in 四条京町家」  
「京の夏暮らし」7月30日

この度ご協力を頂いた方々、ご参加下さった方々には、この場をお借りして感謝申し上げます。

京町家まちづくりファンドに  
たくさんのご寄付をお願いします!

京都の暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化を象徴する京町家。京町家を受け継ぎ、引き継いでいこうとする皆さまの想いをかたちにするために、京町家まちづくりファンドは改修助成等による支援をしています。



平成22年度 寄付金額 1,421,085円

ご協力ありがとうございました!



個人賛助会員専用 DC ゴールドカード

クレジットカードの年会費永久無料。賛助会費の引落しや、お買い物でご利用いただいた金額の0.2%がカード会社から京町家まちづくりファンドに寄付されます。ゴールドカードの特典やポイントは、通常と変わらずご利用いただけます。

売上げの一部がファンドへ寄付されます。

寄付つき商品の企画  
自動販売機の設置  
事業者募集中!

ご協力いただける方はこちらまでご連絡ください。

(財)京都市景観・まちづくりセンター 管理課  
TEL 075-354-8701 FAX 075-354-8704  
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>



井筒八ツ橋

(株)井筒八ツ橋本舗様のご協力で、1箱につき1円のご寄付をいただいています。おみやげにどうぞ!

支援自動販売機

飲料メーカーと設置協力者とのご協力により、売上げの一部を寄付いただいています。



京町家まちづくりバナナ

(株)ドール様と京都青果合同(株)様のご協力により、1房1円のご寄付をいただいています。京都市内の百貨店やスーパーで売っています!

# 京町家まちづくり調査員 大同窓会



※京まち工房 46号

平成 23 年 5 月 29 日、平成 20 年度から 21 年度にかけて実施した京町家まちづくり調査\*のボランティア調査員有志の企画による大同窓会を開催しました。



## 語る

台風2号が接近する大雨の中、ひと・まち交流館 京都に約50名の元調査員が集まり、調査結果の分析報告や、町家の分布状況、思い出や感想、今後の展望について熱く語り合いました。

京町家まちづくり調査記録集  
<http://www.city-kyoto.lg.jp/tokei/page/0000089608.html>



## 歩く

調査時の雰囲気を思い出せるようにまち歩きを企画しました。歴史と緑が凝縮した東山区六原学区の町家の残る町並みを眺めながら、懇親会会場の「六原やすらぎ・ふれあい館」に向かいました。

六原学区  
[http://kyoto-machisen.jp/chiki\\_hp/rokuhara\\_hpp/](http://kyoto-machisen.jp/chiki_hp/rokuhara_hpp/)



## 今後の活動

調査での経験や思い、人材を活かし、楽しみながら京町家のサポート活動を企画、実施していく「京町家なんでも応援団」への参加を呼びかけたところ、30名を超える申し込みがありました。

京町家なんでも応援団  
<http://machisapo.bbs.coocan.jp/>



調査を通じて、学生さんや、主婦の方、大工さんなどさまざまな世代、職種の方の交流できたことは、次の世代にまちづくりをつなげるきっかけにもなったと思います。今回の同窓会では参加者の調査時と変わらない熱い思いを強く感じ、今後、心強い活動に発展していくと確信しました。

文 = 浜谷富美子

京町家なんでも応援団も出演!

### まちづくりお役立ち情報

次代に引き継ぐ  
京町家なんでも相談

改修、活用、賃貸借、売買、相続、税金など京町家に関する様々な悩みに応じます。

無料

相談対象 京都市内において、昭和 25 年以前に伝統的な工法によって建築された京町家等

受付時間 9:00 ~ 21:30 (平日・土) 9:00 ~ 17:00 (日・祝)

休館日 第3火曜日

まちづくりチョビット推進室

まちづくり活動や景観保全の活動について、ゲストをお招きしてコミュニティラジオ放送で配信しています。

ラジオ  
FM 79.7 15:30 ~ 16:00 (第3・第4土) 7:00 ~ 7:30 (第3・第4日)

過去の放送分はこちらでお楽しみいただけます。  
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/suisin.html>

# 東日本大震災・復興まちづくり

私たちは何ができるのか、ともに考える



平成 23 年 5 月 20 日、京都市下京区キャンパスプラザ京都にて「東日本大震災・復興まちづくり - 私たちは何ができるのか、ともに考える -」が開催されました。主催：学芸出版社、都市計画家協会関西支部 / 後援：大阪府建築士会、京都市景観・まちづくりセンター



建築・都市計画学会をはじめ、様々な建築・都市計画関係者が参加して、復興まちづくりとその支援に向けた意見交換が行われました。

共通認識として確認されたのは、「地域主体の復興の支援」「現地で復興ビジョンを考える」が基本であるという視点です。被災地の大部分が地域と生業が密接に関わっている漁村地域であるため、各々が他地域へ避難することが難しく、被災以前のまちづくりや社会関係のあり方を掘り起こしていく必要があります。東北の地に引き継がれてきた先人の知恵とともに、地域の歴史や文化の連続性を重視した取組でないと「地域の復元力」が育まれないとの意見が出されました。

## パネルディスカッション「私たちは何ができるのか」

被害の全体像の把握のための調査が急務であり、他学会や業界との連携と仕組みづくりの必要性が話されました。地元の専門家との協働が不可欠な中、「(地元に着して)支援をする人への支援」の重要性も指摘されました。地域のまちづくり組織の立上げや関連団体の横連携による情報のプラットフォームづくりが待たれる中、こうした現場への全国からの専門家支援と人材教育についても言及されました。息の長い取組を覚悟し、いかに専門家として役割を發揮できるか、「地域への帰属意識をなくさせない」「地域の風景を断絶させない」各々が強い気持ちを保ち続けることが重要であると指摘されました。



セミナーの資料や動画、参加者のご感想等は学芸出版社HPで公開されています。

<http://www.gakugei-pub.jp/>

文 = 大久保悠子

ひと・まち交流館 京都 図書コーナー



ひと・まち交流館に図書コーナーがあったのか!?と思われる方も多はず。まちづくり、建築、介護、福祉、ボランティアを中心に、いろいろな書籍を取り揃えています。どうぞお気軽にお越しください。

開館時間 10:00 ~ 20:30 (平日・土) 10:00 ~ 17:00 (日・祝)

休館日 第3火曜日

お問い合わせ 075-354-8703



# 財団法人 京都市景観・まちづくりセンター 賛助会員募集中！

センターの活動の趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集し、お寄せいただいた会費は情報誌の発行や、まちづくり活動の支援、京町家の保全、再生に向けた取組などの事業に活用させていただきます。  
会員の皆様には、様々な特典をご用意しています。

## 🏠 賛助会員の特典

### ● 情報誌「京まち工房」送付

京都のまちづくりの最前線を紹介するセンターの情報誌「京まち工房」(季刊・年4回)をご送付いたします。バックナンバーをセンターホームページで公開中。  
(各区役所・支所窓口にて配架)

### ● セミナー・シンポジウムご優待

京町家の改修見学や、一般非公開の施設見学など参加人数を限定させていただいているセミナーなどのお申し込みについて優先的に受け付けさせていただきます。

## 🏠 賛助会員の種類

年度会費 (4月1日～3月31日)

個人1口 5,000円  
団体1口 50,000円

(入会は随時受け付けています)

個人会員向けのDCゴールドカードもご用意しています。詳しくは6ページをご覧ください。

## 🏠 賛助会員の入会窓口

センター受付窓口、ホームページ、センター配布の振込用紙からどうぞ。  
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

## ワザワザワードパズル

緑の■に入る6文字を組み合わせて言葉を完成させてください。

正解者に抽選で5名の方に

「京都いまむかし彩色写真館」  
ポストカード(12枚組)を  
プレゼント。

ヒント：古都京都の文化財

	1		b	c
	a			d 5
2				
3				
	4			

### よこのカギ

- 1 売上金の一部を京町家ファンに寄付をいただいている果物は○○○。右へ3文字
- 2 建築基準法で定められた基準に上乘せして、地域に合ったきめ細かな建築のルールを住民自ら取り決め、互いに守りあっていく制度は建築○○○○○。右へ5文字
- 3 敷地を住民が共有しており、全体の配置が一体的に計画されている、低層の連続住宅はタウン○○○。右へ3文字
- 4 参加費の一部が京町家まちづくりファンへの寄付となるチャリティーイベントで、京町家を舞台に様々な体験を通して魅力を実感していただくのは京町家まちづくり○○○。右へ3文字
- 5 参加費の一部が京町家まちづくりファンへの寄付となるチャリティーイベントで、地元ガイドによるまちあるきを通して京町家の魅力に迫るのは京町家まちづくり○○○。左へ3文字

### たてのカギ

- a 平成23年5月29日に大同窓会で集まったスタッフが関わった事業は京町家まちづくり○○○○。下へ4文字
  - b 京町家に関する悩みなどをお持ちの方が気軽に相談できるのは、京町家○○○\*○相談。下へ4文字
  - c もし地震が起こったら、まずは身の安全を守り、料理中であれば○○○を防ぐためにすぐに火を消す。下へ3文字
  - d 寄付金を運用して京町家の保全・○○○○・活用を図る京町家まちづくりファン。下へ4文字
- はがきに答えと住所・氏名・連絡先を書いて下記住所まで。  
8月31日当日消印有効。  
財団法人京都市景観・まちづくりセンター  
〒600-8127  
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅浜町  
83番地の1 ひと・まち交流館 京都 地下1階

## ふっきーの徒然なるままに



### 第7回 「想定外」問答

阪神・淡路大震災から16年。東北地方が大きな災禍に見舞われ、取り返しのつかない多くの尊い犠牲を出してしまった。被害に遭われた方々の計り知れない悲しみ、多くの方々の赤心の復旧活動。掛けようとするどんな言葉も軽薄に感じてしまう。

そのような中ではあるが、今回は、現状とは少し距離を置いて、この大震災の初期の反応として、テレビに出てくる政治家、専門家が頻りに使用した「想定外」という言葉について考えてみたい。

最初に、結論を言っておくと、今回のこの「想定外」という言葉ほど無責任で、無能なことを自ら暴露した言葉はないということである。

人類が、自然をもコントロールできるかの如く誤解するほど科学文明が発達した今日において、今回の地球現象は、起こり得るものとして当然想定範囲内にあったはずであり、過去の歴史、伝承或いは

近年の環太平洋を取り巻く諸現象を真摯に受け止めていれば、当然想定できたものである。その情報の透明化の下に、何をどこまでするのか、しなければならぬのか、何を覚悟することになるのかを、民主的合意の下に認知し合うことになるのである。特に今回は、国家、国民の危機管理をあらゆる観点から行っていないならば、政治家が挙って平気な顔で大衆にこの「想定外」という言葉を使ったのである。

翻って、伝統、文化、歴史の継承をまちづくりの基本として声高に叫んでいる分野を考えた時、専門家や行政は今回の発言を他山の石として真摯に振り返っているのだろうか。ごく最近、耳を疑うようなことを堂々と述べているのを見て唖然とした。

このことについて、これから少しこのコーナーで触れていきたいと思う。

つづく

## スタッフのつぶやき



### スタッフ O.M

京町家のセミナー担当。  
最近うれしかったこと  
「初めて庭のローズマリーの  
花が咲いたこと」

センターでは、様々な立場の方とつながりながら活動の支援をしたり、一緒に取り組んだりすることが多いのですが、時折、それぞれの主張が異なりどうしたらよいか分からなくなることもあります。でも、話をよく聞いてみると実は、「大切にしたいこと」は皆さん同じだったりして。コミュニケーションって、難しいですね。でも、だからこそコミュニケーションが大切だと思います。これからも「聴くこと」を大切に、いろんな結び目をつくっていけたらと思います。